

奈良県立万葉文化館蔵

『万葉集』(平仮名傍訓本) 解題

阪口 由佳

【書誌情報】

(貴重書番号:口42)

〔体裁〕 写本 綴葉装 二十冊

〔表紙〕 紺地金泥 題簽「万葉集 (一〜二十)」

〔料紙〕 鳥の子料紙

〔寸法〕 縦二四・一cm 横一八cm

〔行数等〕 八行一八字詰

〔刊年〕 無刊記 江戸時代写

〔摘要〕 木箱入り。木箱天面上に「万葉集 (二十□)」、

側面正面に「日天／第八號」の貼紙あり

* () は小書き、□は判読不能、／は改行を示す

【解説】

巻ごとに異なった美しい表紙が目をひく、二十巻揃いの写本である。堅牢な用紙、美麗な字体で、調度品としての価値があったらしく、「嫁入り本」とも通称されている。^{1,2)}

万葉集写本では珍しい、「平仮名傍訓」と呼ばれる(漢字で記さ

れた歌の右に、ひらがなの訓を付す)形式のものである。慶長元和^{けいちょうげんわ}古活字版(江戸時代初めごろ)に基づき、片仮名傍訓をひらがなに改めたものであると指摘されている。³⁾ただし、古活字版に必ずしも忠実というわけではなく、たとえば、一文字・一行のズレがまれに見られ、題詞に古活字版にはない傍訓を付している(次頁下面画像参照)。古活字版に基づきつつ、目録部分からわかる地名・人名の訓を歌部分の題詞にも補って付したとおぼしい。平仮名傍訓が多くなること、いつそう見た目も華やかになっている。

複数箇所の錯簡があり、原因等詳細な調査が必要である。

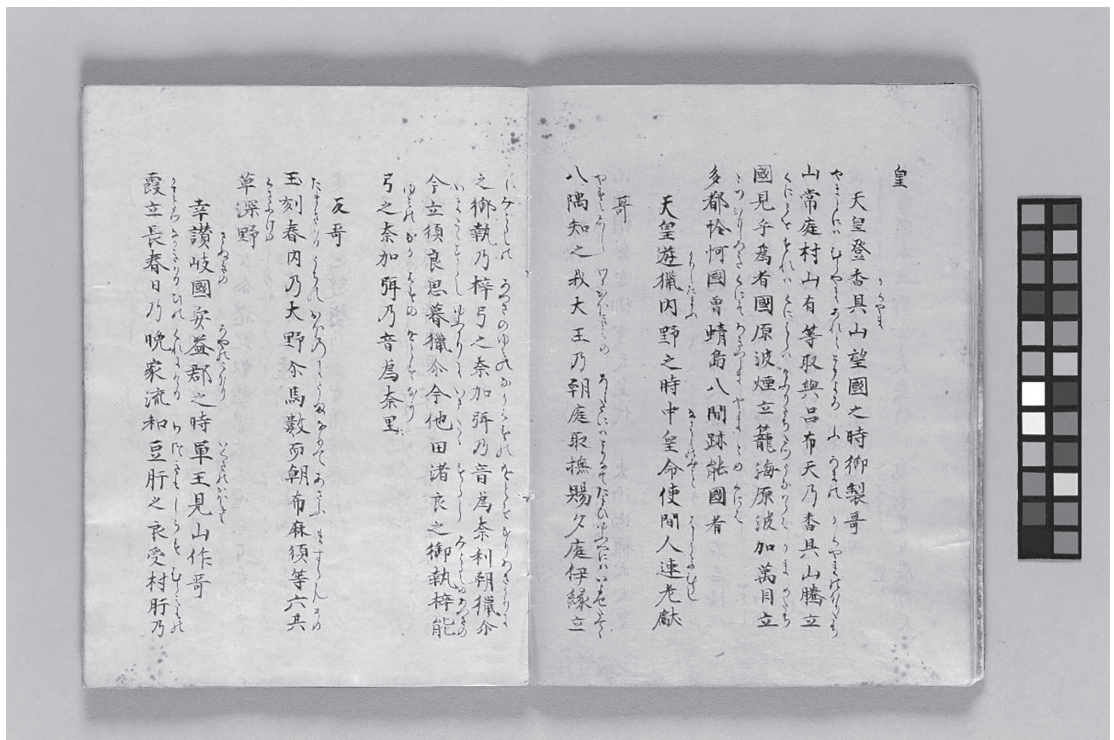
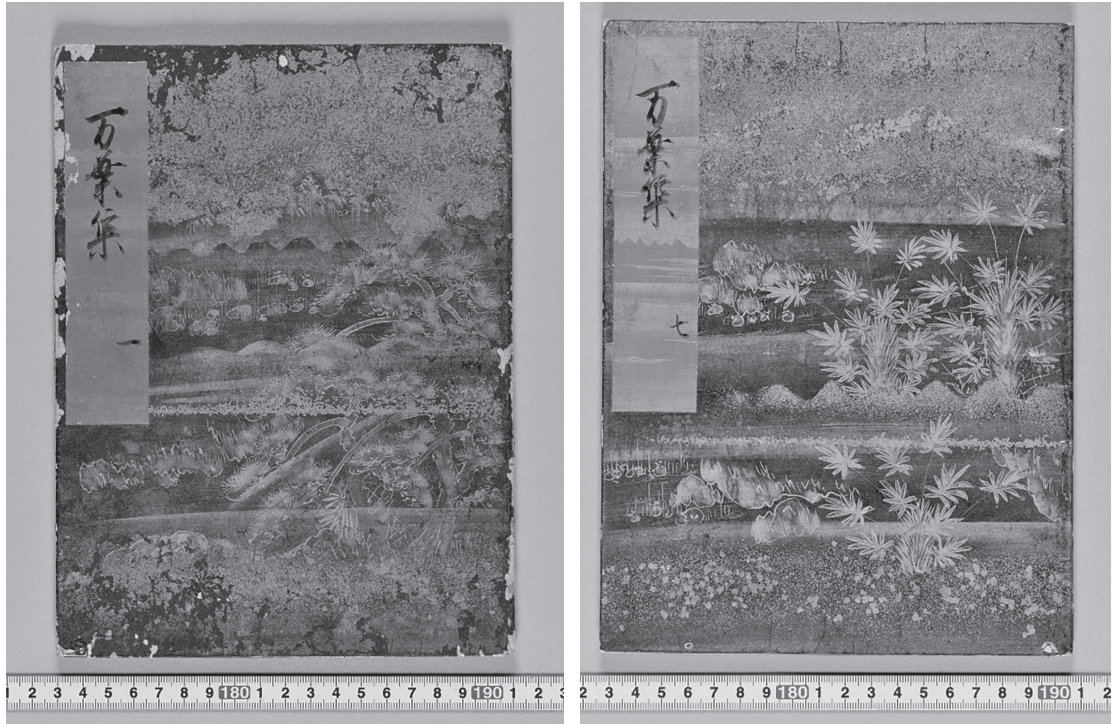
平仮名傍訓形式の写本は現在ほかに六本あることが報告されており、今後の比較研究が期待されている。³⁾

註

① 乾善彦「万葉集をよんだ人々・人々のよんだ万葉集―付、万葉文化館蔵万葉集および万葉集関連書籍―」(『万葉古代学研究年報』第七号 二〇一九年三月)

② 田中大士「新たな万葉集伝本群の発見―万葉集平仮名傍訓本―」(『万葉古代学研究年報』第十七号 二〇一九年三月)

③ 田中大士「もう一つの万葉集平仮名傍訓本―関西大学蔵の題詞の高い平仮名傍訓本―」(『國文學』一〇四号 関西大学国文学会 二〇二〇年三月)



*古活字版では一行目「天皇」。
当該本では「香具山」「中皇命」「間人連」「讃岐」「軍王」に訓を補っている。